

日本保険学会 平成 23 年度第 5 回理事会議事録

●日時：平成 24 年 3 月 2 日（金）17:00～18:10

●場所：損保会館会議室

1. 審議事項

（1）入退会者

江澤理事長より個人会員の入会者4名、退会者20名の説明があり、異議なく了承された。
あわせて、理事長より以下の補足説明ならびに依頼があった。

平成23年12月より個人会員の入退会につき、持ち回り審査という新たな制度を導入したがこれにかかわる入会者4名と退会者3名(12月、1月分)については既に書面にて承認済みである。

今回は年度末ということで退会者が多いが、23年度通算では入会59名に対し、退会49名であり、若干ではあるが入会者は増えている。昨年度は入会48名に対し、退会53名と退会者の方が多かった。

ご承知のとおり、会費収入は当学会のほぼ唯一の収入源であることから、引き続き新規会員の勧誘をお願いしたい。

（2）大会企画部会関連

山野大会企画部会長より、本日開催された大会企画部会について以下のとおり報告があった。

① 部会の名称変更について

これまで、「大会企画部会」と称されていたこの組織の名称を、「大会企画委員会」に変更することを提案する。「部会」と称すると、関東部会や関西部会と同様の性格の組織と見られてしまうが、実態は他の理事会に属する委員会と同様の活動をしているので、大会企画委員会と称するべきであるため。

② 来年度大会については、以下のとおり。

- ・ 12月の理事会でも報告したとおり、2日目はまる1日をかけてシンポジウム「巨大災害・巨大リスクと保険」を行なう。このため初日に特別講演、招待報告、総会、自由論題を行なうことになる。
- ・ シンポジウムのテーマならびにパネラーは、以下のとおり。（敬称略）

総合司会：福田弥夫（日本大学）

1. 総論的課題

- ① 「巨大災害・巨大リスクと保険制度」 堀田一吉（慶應義塾大学）
- ② 「巨大災害・巨大リスクと法制度」 山本哲生（北海道大学）

- ③「巨大災害・巨大リスクとリスク管理」岡崎康雄（NKSJリスクマネジメント）

2. 各論的課題

- ①「損害保険の課題」 未定（東京海上日動火災）
②「生命保険の課題」 明田 裕（ニッセイ基礎研究所）
③「再保険の課題」 未定（トーマ再保険）
④「地震保険制度の課題」黒木松男（創価大学）

・自由論題については、経済・商学系で3名、法律系で3名の合計6名のエントリーがあった。このため、来年度は2セッションのみとすることとした。

第Iセッション（経済・経営・商学系）

座長：中林真理子[明治大学教授]

- ①企業年金ガバナンスと経済学の接点 報告者 丸山高行(住友生命)
②生活協同組合共済における健全性維持のための資本管理
報告者 大塚 忠義（武蔵大学大学院）
③財閥系生保の戦後の相互会社化—GHQ指導説の検証—
報告者 黒木達雄 （名古屋商科大学教授）

第IIセッション（法律系）

座長：潘 阿憲（首都大学東京教授）

- ①保険価額について（仮題）中出 哲（早稲田大学）
②民法（債権関係）改正と保険会社の約款の事前配布」（仮題）
小林雅史（ニッセイ基礎研究所）
③イギリスにおける保険契約法改正（仮題）中村信男（早稲田大学）

自由論題の当日の報告時間は、「1報告につき50分」となり、本年度に比べ、15分延長となるので、「報告時間が短すぎる」という従来から多い参加者の不満へ対応できるものとする。

なお、黒木先生については、これまで部会での報告実績はないものの、既に保険関係の論文も発表されているなどの実績があることから、大会での報告を承認願いたい。

以上の報告内容ならびに提案につき、承認した。

（3）役員分担人事

中浜編集委員会委員長より、編集委員会の吉澤理事が辞任するが、後任として澤本百合会員（東京海上日動火災保険）を就任させたい、との提案があり、承認された。

（4）国際交流関連

国際交流委員会久保委員より、昨年12月に中国保険学会会長を訪問した結果につき、説明があった。

次いで、理事長より 以下の提案があった。

- ①本日、国際交流委員会委員長今井評議員は、ご欠席であるが、国際交流委員会としては中国保険学会につき、今後とも交流に向けた検討を続けたいとの意向である。つい

ては、中国出張費用として20万円を来年度の学術交流費に計上したい。

- ②韓国保険学会については、例年5月に大会が開催され、毎年保険学会から代表者が報告を行なっている。来年度については本日まで正式な招聘状が到着しておらず、日程等未詳である。ついでに来年度の同学会での報告者については、その人選を国際交流委員会に一任することをご了承願いたい。

以上2点につき、了承した。

(5) ホームページ委員会

英文ホームページの充実化に関して、ホームページ委員会と国際交流委員会の共同提案が理事会宛、提出されており、この内容につき明田ホームページ委員会委員長より説明があった。

特段の反対意見がなかったことから、理事長より、この共同提案にもとづき、英文ホームページの充実化費用として来年度予算に20万円を計上したい、との提案があり承認された。

(6) 平成24年度事業計画・予算(案)

平成24年度の事業計画(案)につき、事務局から説明があった。これに関して、事業計画は委員会規則(案)に盛り込まれている「委員会の目的」に準拠した内容とすべきではないかとの意見があり、事務局にて検討のうえ、事業計画(案)を再提出することとなった。

次いで、平成24年度予算案につき、事務局から説明があった。

この予算案には、議題(4)中国との交流関係、(5)英文ホームページ充実関係の予算を盛り込んだほか、関西支部、九州支部が来年度に実施を予定している「自然災害シンポジウム」の補助金申請についても含まれていることが、説明された。

更に、来年度予算として「保険学雑誌の臨時増刊号発刊予算」として100万円、また「予備費」として50万円を計上しているとの説明があった。予備費は近年の学会予算には無かった項目であるが、学会の機動的な運営のために新設するものである。但し、費消に当たっては事前に監事の了解を取るほか、費消状況を事後的に理事会に報告するものとした。

この予算案について、特段の異議なく了承した。

(7) 各種委員会規則策定

理事長より、12月理事会で示した企画委員会規則(案)にならって、各委員会、各支部、九州支部から規則(案)を頂戴したとの報告があった。本日は時間の関係で資料の配布のみとし、理事・監事が持ち帰り検討することになった。

なお、理事長より、来年度の学会役員改選時までに、委員会規則を確定したいというスケジュールが示された。

2. 報告事項

(1) 委員会等報告

- ・保険学雑誌編集委員会

中浜委員長より大会・部会報告の保険学雑誌への掲載状況につき、説明があった。

- ・部会、支部報告

甘利関東部会部会長より3月シンポジウムの準備状況、井口関西部会部会長より2月部会の状況、また事務局より、九州支部の12月例会の状況につき、それぞれ報告があった。

5. 各種委員会における主な活動

将来構想委員会の報告（平成19年3月9日）を受け、昨年度に引き続き、日本保険学会の活性化に向け各種の委員会・部会等において、下記のとおり積極的な活動を実施した。

（1）賛助会員・普通会費

今年度は平成15年の郵政省簡易保険局（現在は、かんぽ財団として継続）以来、8年ぶりに以下4団体が賛助会員として新たに加入した。

これに伴い、賛助会費は前年対比25万円増加し総額680万円を受領できた。

- ・日本共済協会
- ・日本損害保険代理業協会
- ・全国大学生協共済生活協同組合連合会
- ・大学生協保険サービス

なお、全賛助会員、ならびに賛助会費の内訳は26ページのとおり。

普通会費については、前年度425万円に対し420万円とほぼ同額であった。

（2）企画委員会

7月に第9回企画委員会を開催し、「役員等候補者選考委員会」委員候補者として6名を選出した（11ページ参照）。また、「企画委員会規則（案）」を新たに作成することとし、第8回企画委員会（前年度3月開催）から、9月開催の第10回企画委員会まで3回にわたり連続審議し、成案を得て12月の理事会に提出した。

なお、学会活性化の論議として、第10回企画委員会において、平成19年発表の「将来構想委員会報告」の1回目のフォローアップ論議を行なった。

（3）編集委員会

平成23年度は、「保険学雑誌」を下記のとおり4回発行した。

- ・第613号：平成23年6月
- ・第614号：平成23年9月
- ・第615号：平成23年12月
- ・第616号：平成24年3月

うち、第615号は「最新海外保険事情特集」として発行した。

(4) 大会企画部会

大会をより充実させ本学会の存在意義を発揮する中核的役割を果たすため、下記のような活動を行った。

なお、平成 24 年度より、本部会は「大会企画委員会」と名称変更することとした。

①平成 23 年度大会（神戸学院大学）

今年度は 5 月、7 月の 2 回会合を持ち、大会開催準備を行った。

- ・大会の総参加人数は226名に達した。特に名誉会員 水島教授による特別講演に多くの参加者があった。
- ・総会において第 1 回日本保険学会賞の授賞式が行われた。
- ・評議員会の活性化を目指して、時間を従来の30分から50分に延長した。

②平成 24 年度大会（日本大学）

来年度大会の実施にあたって、10 月以降、3 回の部会会合を持ち

- ・シンポジウム、共通論題のテーマ決定
 - ・報告時間の確保等
- についての議論を行った。

(5) 国際交流委員会

本年度は 7 月に 1 回会合を持った。

① APRIA 東京大会

APRIA 東京大会は、8 月に明治大学で開催された。大会事務局長である中林評議員によれば、東日本大震災の影響で参加者が少ないことが懸念されたが、結果的には 200 名近い参加があり、成功裡に終了した。なお、開催に関し当学会における国際交流の活性化を図る観点から、当学会から 50 万円の寄付を行なった。

②韓国保険学会との交流

平成 23 年度は、次のとおり相互交流を行った。

- ・韓国保険学会への派遣

韓国保険学会 2011 年度定期総会及び創立記念学術大会に石田評議員を派遣した。

- ・韓国保険学会からの招請

平成 23 年度大会への報告者を韓国保険学会に招請し、KonKuk 大学 Dong - Han Chang 先生から報告を頂戴した。

③中国学会との交流推進検討

- ・久保理事が、前年度 3 月末ならびに 12 月に北京に出張し、中国保険学会長を表敬訪問している。その報告をもとに今後の交流推進に検討を行なった。

(6) ホームページ委員会

本年度は11月に1回会合を持った。

- ・ 現在利用している国立情報研究所(NII)のサーバーが平成24年3月より廃止となり、るので、別のサーバーへ移行した。
- ・ 保険学雑誌の電子ジャーナル化が、運用開始後1年たって、当初予定通り掲載されるようになった。
- ・ 学会ホームページの英語版の充実を図ることとし、関連委員会と調整を行なった。

(7) 学会賞選考委員会

5月と7月に会合をもち、第1回日本保険学会賞の選考を行なった（2ページ参照）

6. 会計状況

平成22年度決算、平成23年度予算は26-27ページ参照。

いずれも平成23年10月22日に開催された総会において承認された。

以 上